

PCB特別措置法の保管状況等の届出様式等の記入要領

- PCB廃棄物保管等事業者の皆様へ -

PCB特別措置法第8条に基づく保管及び処分状況等届出書(様式第1号(1))の届出に際しては、届出様式に記載の「備考」の他、以下の記入要領をよくお読みいただいた上で、これらに従って記入していただくようお願いします。

記入が適切でない場合は、修正をしていただくこととなります。

記入要領

記入表

- ・届出様式には、 から までの表がありますが、全ての表を届け出てください。該当しない表がある場合は、その表に該当なしと記載してください。表 の記入内容が表 と同一である場合は、表 に「表 に同じ」と記入してください。

届出者の記載欄

- ・法人にあつては、「氏名」欄に登録等で用いている正式な名称を記入してください。
 - ・「資本金の額又は出資の総額」欄は、算用数字で円の単位で記入してください。
 - ・「従業員数」欄は、算用数字で人の単位で記入してください。
 - ・業種については、別表1に例示しましたので、参考にして記載してください。
- なお、特に以下の業種の方は注意して記載してください。

ゴム製品製造業について

〔自動車・航空機用タイヤ及びチューブ製造業、工業用ベルト製造業に該当する場合は、その旨明確に記載してください。〕

卸売業と記載する業種

〔飲食料品卸売業、建築材料卸売業、化学製品卸売業、機械器具卸売業、家具卸売業などが含まれます。〕

小売業と記載する業種

〔飲食料品小売業、百貨店、スーパー、家具小売業、機械器具小売業、燃料小売業などが含まれます。〕

サービス業と記載する業種

〔洗濯業、理容業、美容業、浴場業、廃棄物処理業、自動車整備業、機械等修理業、娯楽業などが含まれます。〕

旅館業と記載する業種

〔旅館、ホテルなどが含まれます。〕

表 から表 における廃棄物の記載

原則として、1台ずつ数えることのできるトランス等の電気機器は、1行に1台ずつ記入してください。ただし、安定器や家庭用電気製品等から取り外した小型のコンデンサなど1つの容器に多量に保管されている場合は、1行に保管されている容器ずつ記入してください。(記入例を添付していますので参考にしてください。)

1)「廃棄物の種類」

- ・廃棄物の種類には、別表2の廃棄物の分類表から、該当する種類の表記を選択して記入してください。該当する種類がない場合は「その他の廃棄物()」として、()内にはできる限り具体的に記入してください。
- ・製品名、略号、事業場内での呼称などの記載はしないでください。以下のとおり表記を統一してください。

統一表記	
コンデンサ	コンデンサー、蓄電器、キャパシタ、ケミコン、PCB 入りコンデンサ、進相コンデンサ
トランス	変圧器、Tr、PT、トランスフォーマー

2)「番号」

- ・電気機器については、1台(1個)毎に整理番号を記入してください。小型電気機器等が1つの容器に多量に保管されている場合は、保管されている容器毎に整理番号を記入してください。
- ・前年度の届出で既に整理番号がある廃棄物についてはその番号を記入することとなりますが、前年度届出で1行に複数台まとめて記入したため整理番号が1つしかない場合は、その整理番号の末尾に枝番号を付して記入してください。

例：13年7月15日時点の保管状況等の届出時に「 - 003」と記載としていたもの 「 - 003-01」「 - 003-02」

3)「量(単位)」

- ・1行に1台(個)で記載した電気機器の「量(単位)」には「1台」(または「1個」)と記入するとともに、合わせて、機器の総重量をkg単位で記入して下さい(総重量は機器の銘板に通常記載されていますが、読みとれない場合は推定でも結構ですので必ず記入してください)。
- ・小型電気機器等が1つの容器に多量に保管されている場合は、容器毎の内容物の重量をkg単位で、容積をL(リットル)単位で、両方を単位とともに記入してください。容積しか分からない場合であっても、推定でも結構ですので重量は必ず記入してください。
- ・液状の廃棄物や、廃感圧紙、ウェス、汚泥等の場合も、重量をkg単位で、容積をL(リットル)単位で、両方を単位とともに記入してください。容積しか分からない場合であっても、推定でも結構ですので重量は必ず記入してください。

4)「廃棄物の型式等」

「製造番号」

- ・電気機器については、機器の銘板に記載されている型式記号を記入するとともに、受電電圧（ VやKVを単位とする数値で、通常銘板に記載がありません。）を単位とともに記入してください。
- ・PCBについては、「KC300」、「KC500」などの製品番号が分かれば記入してください。

「製造年月」

- ・「昭和40年5月」、「1965年4月」などのように年及び月は算用数字で記入してください。

「容量等」

- ・電気機器の場合は、電気機器の大きさを把握する手がかりとして重要ですので、必ず、電気機器の定格容量の数値（KVAを単位とする値で、通常機器の銘板に記載があります）に、「KVA」をつけて記入してください。定格容量（KVA）が不明の場合は、機器の寸法（縦×横×高さ）をmm単位で記入してください。

例：だいたい「1m×1m×0.5m」のとき「1,000×1,000×500」

5)「容器の性状」

- ・なるべく下の表のいずれかの表記例を記入した上で、その状態について特記すべき事項があれば記入してください。
- ・トランスやコンデンサなどの電気機器の外側ケースは保管容器ではないので、そのまま保管している場合は「容器無し」または「裸」としてください。

容器の性状の表記	適用
容器無し または 裸	保管容器に収納していない場合。トランス等を裸で保管している場合も含む。
金属製箱	鉄などの金属製の箱に収納して保管している場合。
ドラム缶（200L）	容積200Lのドラム缶（金属製）に収納して保管している場合。
ドラム缶（300L）	容積300Lのドラム缶（金属製）に収納して保管している場合。
一斗缶	金属製の一斗缶に収納して保管している場合。
プラスチック容器	プラスチック製のタンク、ケース等に保管している場合。
段ボール箱	廃感圧紙などを段ボール箱に収納して保管している場合。
コンクリート槽	汚泥等をコンクリート槽に保管している場合。
屋外タンク	屋外タンクに収納して保管している場合。

屋内タンク	屋内タンクに収納して保管している場合。
その他の容器（ ）に収納	上のいずれでもない容器に保管している場合。 （ ）に具体的な容器の性状や寸法、運び出しの可否などを記入する。

6) 「漏れ等のおそれ」

- ・ 容器等に収納されていて、外部への漏れはないものの、収納されている機器本体からの漏れがある場合は、「容器内で漏れあり」と記入ください。

7) 「参考事項」

- ・ PCBを含む油は、できる限り「参考事項」欄にPCB含有濃度（推定でも可）及び主たる油の名称（灯油、洗浄油、有機塩素溶剤等）を記入してください
- ・ 汚泥等については、できる限り「参考事項」欄にPCB含有濃度（推定でも可）及び含水率等を記入してください。

8) 「合計欄」

- ・ 合計欄については、1) 「廃棄物の種類」毎に合計の数量（台、重量等）を算出して記入してください。